

2007年4月23日日本テレビ 定例社長記者会見

＜発表＞

久保伸太郎社長：私のほうから3点お知らせがございます。

まず、2006年度日テレCM大賞が決定しました。大賞には、NTTDoCoMoの『FOMA一人旅篇』が選出されました。私ども日本テレビでは、CMに対してこのような賞を設けて、皆さまと広くCM文化の向上に資するというのは初めての試みです。この賞を創設にするにあたって心を碎いた点は、1つは、視聴者の皆さまからのインターネットを通じた投票を中心として識者の方に選んでいただいたということ。もう1つは、たくさん出稿していただいた方に何か賞を差し上げてお応えするという形ではなく、CMは広くテレビ文化、放送文化の重要な一端を担っているという認識から、テレビの媒体価値を維持し、発展させていく上で、CMクリエーターの皆さまに対する評価や、奨励になればとの考えから、日テレCM大賞に選ばれたNTTDoCoMoの担当者お二人を、今年6月から開かれるフランスのカンヌ国際広告フェスティバル視察研修会に派遣します。さらに、受賞企業の製品などを100万円相当分購入して、視聴者の皆さんにプレゼントします。

2つ目は、6月14日の「モクスペ」で放送する「ガリレオの遺伝子」という番組で、本日4月23日からNTTDoCoMo、KDDI、ソフトバンクの動画再生可能な携帯電話で、番組内容のダイジェストムービーが日テレ携帯サイト「My日テレ」を通じて見られるというサービスを始めます。放送と通信を連携させて、様々なコンテンツやサービスを展開していくのが狙いです。

3つ目は、「24時間テレビ」のチャリティー募金から義援金500万円を能登半島地震の被災者のために贈呈いたします。これまでにも国内外で発生した災害に関しては、義援金贈呈などの災害支援を行っています。

1. 期首特番の手ごたえと4月改編の動向、GW特番について

記者：4月の視聴率動向、特に4月改編でスタートした番組、4月期のドラマ、ゴールデンタイムの特番についてお願いいたします。

久保社長：4月改編は、かねてからお話をしてきたところですが、ゴールデン、

プライムを中心に、特に自社番組の視聴率1ケタ番組を追放するべく、一部前倒しを含めて大幅な改編や枠移動を実施しました。テレビ業界の常とすれば、かなり冒険というか、リスクを伴った部分もありましたが、私自身は、ほぼ目指した方向に歩み出したのではないかと思っています。

まだまだ100%全部、打率10割というわけにはいきませんが、ある程度時間をかけて早い機会に新しい番組に対する視聴習慣を確立していきたいと考えています。意気込みとしては、現場も一丸となって取り組んできた成果が出てきているのではないかと思います。

山根義紘取締役：4月の新番組が全部出揃いまして、1ケタ番組は1本もなく、すべての番組が2ケタ以上の視聴率を獲得しました。今期から火曜日の「ドラマゴールド」の2時間枠をバラエティ1時間とドラマ1時間の2枠に分け、火曜日、水曜日、土曜日と3つの連続ドラマがスタートしました。水曜日の「バンビ～ノ！」、土曜日の「喰いタン2」、ともに16%を超える形でスタートしています。

改編率34%という大改編を実施しましたが、今のところ改編は成功裡に終わっています。今後これをどうやって加工して定着、安定させるかというのが最大のテーマですから、今後も油断せずにやっていきたいと考えています。1回目の番組が出揃ったところでの視聴率ではありますが、こうした形でスタートできることには満足しています。

期首特番についてですが、「ザ！世界仰天ニュース」の4時間スペシャルは、思いきってやりましたが大成功で終わっています。それから、枠移動した「天才！志村どうぶつ園」のスペシャル版も16%を超えました。このほか「ぐるぐるナインティナイン」、「世界一受けたい授業」、「ザ！鉄腕！DASH!!」、「行列のできる法律相談所」、これらのレギュラーパートの拡大版がことごとくかなりよい視聴率を取っています。やはりレギュラーパートが定着することによって、その拡大版の視聴率が取れるということが実証されたので、今後こういう形で、レギュラーパートの安定を最大の目標において、番組づくりに邁進していきたいと考えています。

ゴールデンウィークの特番については、4月29日頃から特番編成になります。5月3日～6日は連休ですから、なるべくC層、T層が見られるような2時間枠の特別番組を考えています。3日は「モクスペ 真の世界王者が集結！ボクシング3大世界戦」、4日は「復活 謎を解け！まさかのミステリーSP」の拡大版、5日は「欽ちゃん&香取慎吾の第78回 全日本仮装大賞」、6日は「世界の果てまでイッテQ！2HSP」のスペシャルというように、子どもたちが楽しめるような特別番組を用意しています。

この4月の改編は、1ケタ番組一掃がある程度の成功をしていますので、これをどうやって安定させるかが最大の目標です。今後このレギュラーを視聴率が取れるものにして、10月の改編に引き継いでいきます。また2008年の総合優勝に向けて短期・中期の編成計画を考えています。

2. プロ野球中継について

記者：巨人戦の視聴率があまり良くないようですが、どのように分析していますか。

久保社長：当然強いジャイアンツに戻ってきてほしいですし、今年の巨人戦中継にはB S、C Sも含めて私どもグループ全体で新しいマルチ展開を打ち出したところですから、もっと視聴率が上がってくることを期待しています。巨人戦のゲーム内容そのものは、去年よりは面白くなっているというか、途中で諦めて、明らかに投げてしまったというようなゲームはほとんどありません。

新たに活躍する選手も出てきています。今が踏ん張りどころで、辛抱して視聴率が上がってくることを期待しています。巨人戦の固定ファンのみならず、より多くの皆さまにも戻ってきていただけるということを強く期待しています。

酒井武取締役：総じてジャイアンツはいい試合をしているなと思います。勝ち負けは当然ありますが、2勝1敗のペースできています。1つ1つの試合も、私は東京ドームでの試合はほとんど見ていますけれど、お客様が怒って帰るような試合は非常に少ない。そういう意味でいくとテレビ的にも可能性はまだまだこれからです。

また今はジャイアンツの5000勝が近づいていますので、それを中心に盛り上げていますが、その後は、例えば金刃憲人投手などどんどん新しい選手が出てきていますので、こうした話題性の高い選手のプロフィールを取り上げるなどといったことも手掛けていきたいと思っています。ジャイアンツの選手だけではなくて、交流戦では楽天の田中投手なども取り上げ、野球全体の底上げになるようなことに取り組んでいきたいと考えています。

久保社長：T B Sとお話し合いをさせていただいて、3月末にT B Sは横浜ベイスターズ主催ゲーム、日本テレビはジャイアンツ主催ゲームで、お互いのアナウンサーを相互に情報系の番組に派遣して、プロ野球のテレビ中継を盛り上

げましょうという企画もやりました。これはもちろんTBSにご了解を得なければできない話ですけれども、今後もまた引き続き、やっていきたいと思っています。

記者：ジャイアンツが低迷する一方で、大リーグ中継は視聴率が上昇していますが、巨人戦に何が足りないのか、社長のお考えがありましたらお願ひします。

久保社長：やはり日本の選手が海外でも通用するというのを世界の舞台で見たいという視聴者が増えてきたことです。私どもがそれを押し止めたり、否定することはできないと思います。

南海ホークスの村上投手に始まり、野茂投手の時代からイチロー選手、松井秀喜選手と何人かの先駆者がいたわけですが、その当時の時代背景と今とは明らかに違うと思います。日本の経済力も国力も強くなつて、その一方で、世界で強い国はアメリカだけだといった時代感覚になってきて、そのアメリカに挑戦して勝てる選手が欲しいという、そういうファン心理、国民心理みたいなものが新しく出てきているということは否定できません。したがつて、活字媒体であろうとテレビであろうと、メディアがそれに応えようとするというのは、押し止めることはできないと思います。

ただ、私どもから見ていて、やはりそれはバランスをとつていかなければいけないと思います。バランスをとるという意味は、日本の有名選手がここぞと、海外へ向けて行ったのなら、我こそはレギュラーを獲得するぞ、次の日本のプロ野球を担う選手になるぞという、そういう選手にスポットを当てていきたい。第一にそういうふうに思います。超スター級の選手が海外で活躍しているのを無視しろとまではもちろん言いませんけれども。

記者：野球中継に関連して、14日に開催された六大学野球の斎藤投手の中継の視聴率が5%台だったと思いますけれども、どのように分析していますか。

久保社長：私自身は大変よかったです。六大学野球に様々なメディアがスポットをあて、アマチュア野球というのは高校野球ばかりではありませんよ、大学野球もありますよ、というような形でもう一度目を向けていただきました。その成果は、野球の裾野、ファン層の拡大という意味では、5%以上のものが大いにあったと思います。

酒井取締役：5.6%は、これはこれで評価すべき数字だと思います。結構プロ野球でも六大学出身の選手が多いんです。「あの選手も六大学野球出身だったの

か」というようなことが野球ファンの間で話題になったりもしています。たしかにハンカチ王子の効果は非常にありますが、トータルでこれから、地上波だけではなくて、BSやG+など、ずっと継続してやっていくことで野球全体へ及ぼす効果というのは、間違いなく出てくると信じています。

久保社長：それから箱根駅伝に関連してですが、私どもでテレビ中継するようになって、途中から様々な工夫を重ねていますけれども、その中で一番ファンや視聴者の皆さんに喜ばれ、評価していただいているのは、選手の出身高等学校を入れていることです。六大学野球の中継についても、東京六大学は確かに東京の大学のチームを中継しているわけですが、出身校なども紹介して、広くいろいろな方に興味をもっていただけるような工夫も非常に重要ではないかと思っています。

記者：六大学野球の今後の中継予定というのは決まっているのでしょうか。

酒井取締役：地上波は現在のところ未定です。今週4月28日は早稲田VS法政を11時から13時までBS日テレで放送する予定です。それから、4月29日の法政VS早稲田は14時から16時までBS日テレとG+で放送を予定しています。その次は5月5日、6日の早稲田VS立教。早稲田の試合を中心にBSとG+で放送する予定です。

記者：4月14日の開幕戦を最初に地上波で中継されたのはどういう判断基準ですか？

久保社長：これは皆さんに広く知っていただくということで、やっぱり地上波でやるということのインパクトの大きさですよね。ですから、斎藤投手が登板する、しないにかかわらず、まず地上波で復活したと。六大学野球中継を復活させたということです。

3. 放送外収入の動向及び3月の営業状況

記者：3月の営業状況と放送外収入の動向などを願いします。

久保社長：決算間近なので、概略的にお話します。3月の放送収入については、スポットは引き続き苦戦はしていますが、タイムで何とか頑張ったということ

ろです。収入全体を見ると、やはり放送外収入が頑張っています。映画やDVDの売上が大きく貢献しています。

すでに常態化している四半期別決算が、来年4月からは制度として本格的に導入されるため、上場企業は、私どもも含めてその体制に移行しています。ですから、スポンサーが上場企業の場合には、四半期ごとの利益に、宣伝・広告費の使い方が左右され、CM出稿の決定がぎりぎりになる。これが5年前、10年前の民放テレビ局の収入のパターンとの明らかな変化であり、予測が難しくなってきました。景気回復していますが、CMの出稿がなかなか出てこない。過去の経験則から言えば、もっと早く広告出稿がまとまてもよいのではないかと思うのですが、期末ぎりぎりになって大量の出稿があるため、CM枠が見つからず、日本テレビのみならず各社大慌てになる、というのが最近の傾向で、これが常態化しつつあるというのが現状です。

3月の営業収入、放送収入も、当初よりは土壇場で出てきました。しかし、スポットはやはりなかなか厳しく、タイムは少し頑張ったということです。

細川知正副社長：放送外収入に関して私からご説明します。まず、3月ですが、まもなく決算ですので、『デスノート』のDVDを中心に極めて順調にいっているということだけにさせてください。放送外収入の伸びは、今回の決算にも反映されてくるということです。

放送外収入は、いわゆる通販などの商品事業と映画関係がメインになるわけですが、商品事業は大体いつものペースで進んでいます。

映画は、この4月現在、2本公開されています。1つは日本テレビが幹事社となっている『東京タワー オカンとボクと、時々、オトン』ですが、2週目に入り、9日間で動員が約50万8000人（4月23日付）、興行収入で6億2000万を少し超しており、極めて順調に進んでいます。興行収入で比較すると、昨年ヒットした邦画「ALWAYS 三丁目の夕日」の93.8%と言う状況です。

それからもう1つ、よみうりテレビが出資している「名探偵コナン 紺碧の棺」も極めて順調で、まだ一昨日公開の作品ですが4億5,000万を超えてます。

映画事業は、今期も順調に進んでおり、この後も力を入れてやっていきます。次の日本テレビ幹事作品は、6月に東宝系で公開される「舞妓Haaaan!!!」です。宮藤官九郎の脚本、阿部サダヲ、堤真一、柴咲コウが主演のエンターテインメント超大作で、私どもも期待しています。

久保社長：「舞妓Haaaan!!!」は、亡くなった植木等さんが最後に出演された作品でもあります。ぜひご覧ください。

4. 4月スタートの新グループ制作5社、再編の狙い

記者：グループ制作会社5社を再編したと、4月2日に発表されていますが、そのねらいと現状についてお願ひいたします。

久保社長：日本テレビには様々なグループ会社がありますが、そのうち制作関連の会社については、これまでに何度も機能別に再編成できないかと、経営レベルだけでなく、社内から提案され、議論の俎上に載せられていました。それぞれの会社は、設立されたときにはそれなりの合理的な理由がありましたが、今後多メディア、多チャンネル時代に打ち勝っていくためにも、やはり制作力の強化が重要と考え、今回機能別に再編しました。

時間がかかる側面があるかもしれません、強い制作会社を作るため、総力を挙げて取り組みます。日本テレビ本体との人事交流等も活発にし、研修等も合同で様々な機会を設けていきます。4月1日に発足しましたが、これらのグループ会社から出向として18人を、日本テレビ本体に新たに受け入れました。将来を展望すれば、日本テレビの経営を担っていく経営陣に参画するには、このグループ会社、特に制作関連のグループ会社で経営としてのノウハウを蓄積することも、非常に重要な要素になっていくと考えています。

5. GWのイベントについて

記者：ゴールデンウィークイベントについてお願ひいたします。

久保社長：このゴールデンウィークは、「シネマフェスタ」と題して、これから公開される新しい映画に関するイベントや、試写会を開催する予定です。

「ズームイン!! SUPER」でお馴染みのマイスター見学ツアーを今年も開催しますが、日テレのエコ親善大使に就任した「ズームイン!! SUPER」のズーミン＆チャーミンと「ズームイン!! サタデー」のサタボーといった人気キャラクターも登場します。日本テレビでは環境にやさしい会社を目指し、エコウイークを設け、番組等を通じて視聴者の皆さんと一体となったキャンペーンを展開しており、GWのイベントでも小さなお子さんたちにも興味を持ってもらえるよう、ズーミン＆チャーミン＆サタボーが、エコを楽しく、わかりやすく紹介します。宮崎駿デザインの日テレ大時計もからくりの公開回数を増やします。是非遊びに来てください。

(了)